

2018年5月30日

開場16:30★ 開会 17:00

グローバル関係学シンポジウム★

# 緊張高まる中東

イラン、イラク、レバノン、イスラエルの今を分析する

★  
駐イスラエル・米大使館のエルサレム移転、イラン核開発合意からのアメリカの離脱、レバノン、イラクでの選挙と、中東地域では、「イスラーム国」の脅威が減少したにもかかわらず、緊張が高まっています。  
本シンポジウムでは、中東地域研究の第一線の専門家の情報分析を受けて、最新の情勢について論じます。

5月30日（水） 17時～20時

司会：横田貴之（明治大学）

趣旨説明：酒井啓子（千葉大学）

報告：

山尾大（九州大学）「IS後のイラクを支配するのは誰か」

末近浩太（立命館大学）「レバノン選挙結果と中東情勢への影響」

松永泰行（東京外国語大学）「単独離脱する米とイラン核合意」

★ 池田明史（東洋英和女学院大学）

「米=イスラエル関係の新局面」

パネル・ディスカッション

会場：

明治大学（駿河台）

グローバルフロント1階  
多目的室

アクセス：[http://www.meiji.ac.jp/koho/campus\\_guide/suruga/access.html](http://www.meiji.ac.jp/koho/campus_guide/suruga/access.html)

（予約不要、先着180名まで）

連絡先：グローバル関係学事務局

e-mail: [gblcrss@chiba-u.jp](mailto:gblcrss@chiba-u.jp)

★ <http://www.shd.chiba-u.jp/gblcrss/index.html>



  
科学研究費補助金  
新学術領域研究

科研費  
KAKENHI

## 講師紹介

**池田 明史(いけだあきふみ)** 新学術領域研究「グローバル関係学」計画研究A02研究分担者

東洋英和女学院大学 学長 国際社会学部教授

1980年東北大学法学部卒。専門は、中東現代政治(紛争問題・イスラエル内政・パレスチナ問題等)。1980年よりアジア経済研究所で中東情勢分析に従事、ヘブライ大学トルーマン記念平和研究所客員研究員(1984-86年)、英オクスフォード大学セントアントニーズ校客員研究員(1994-95年)等。1997年から東洋英和女学院大学助教授、2001年同教授。2014年より現職。主要編著に『イスラエル国家の諸問題』(アジア経済研究所、1994年)、『現代イスラエル政治』(アジア経済研究所、1988年)、共著に『途上国における軍・政治権力・市民社会』(晃洋書房、2016年)、『中東政治学』(有斐閣、2012年)、『イスラエルを知るための60章』(明石書店、2012年)、『中東』(自由国民社、2002年)など。



**末近浩太(すえちかこうた)** 同計画研究B02代表者

立命館大学国際関係学部教授

1997年横浜市立大学文理学部卒、1998年英国ダラム大学修士課程修了、2004年京都大学大学院アジア・アフリカ地域研究研究科博士課程修了、同博士(地域研究)。専門は、中東地域研究、国際政治学、比較政治学、特にシリア・レバノンのイスラーム主義思想・運動。2006年立命館大学国際関係学部助教授、2014年より現職。この間、オクスフォード大学セントアントニーズ校研究員(2009-10年)、ロンドン大学SOAS中東研究所研究員(2015-16年)など。日本中東学会理事(2017年-)日本比較政治学会理事(2014年-)。主な単書として、『イスラーム主義』(岩波新書、2018年)、『イスラーム主義と中東政治—レバノン・ヒズブッラーの抵抗と革命』(名古屋大学出版会、2013年)、『現代シリアの国家変容とイスラーム』(ナカニシヤ出版、2005年)、共著として『現代シリア・レバノンの政治構造』(岩波書店、2009年)、『比較政治学の考え方』(有斐閣、2016年)、主な論文として、「序論 中東の政治変動—開かれた「地域」から見る国際政治」『国際政治』第178号(2014年)など多数。

**松永泰行(まつながやすゆき)** 同計画研究A01代表者

東京外国語大学大学院教授

ニューヨーク大学(NYU)大学院政治学科博士課程修了。Ph.D.。専門は、比較政治学(イラン政治、比較民主化論)、中東地域国際関係論。在イラン日本大使館専門調査員(1997-1999年)、日本大学国際関係学部専任講師、東京外国語大学大学院准教授を経て、2013年より現職。北米中東学会、国際イラン学会、米国政治学会、米国社会学会等の会員。

主要共著に『途上国における軍・政治権力・市民社会—21世紀の「新しい」政軍関係』(晃洋書房、2016年)、主要論文に、“Islamic Dissent in Iran's Full-fledged Islamic Revolutionary State,” in *Between Dissent and Power: The Transformation of Islamic Politics in the Middle East and Asia*, edited by Khoo Boo Teik et al. (Palgrave-Macmillan, 2014), 「イランの戦略文化と覇権問題—原則的抗米姿勢と抑止力追求の背景」『国際政治』167号(2012年)など。



**山尾 大(やまおだい)** 同計画研究B02分担者

九州大学大学院比較社会文化研究院・准教授

2010年京都大学大学院アジア・アフリカ地域研究研究科博士課程修了、同博士(地域研究)。専門は、中東地域研究、国際政治学、比較政治学、特にイラク政治。2010年九州大学大学院比較社会文化研究院講師、2014年より現職。日本中東学会評議員(2015年-)日本比較政治学会理事(2016年-)。主な著書は、『現代イラクのイスラーム主義運動』(有斐閣、2011年)、『紛争と国家建設』(明石書店、2013年、第17回国際開発研究大来賞)、共編著に『イラクを知る60章』(明石書店、2013年)、『「イスラーム国」の脅威とイラク』(岩波書店、2014年)、翻訳に、ロジャー・オーウェン『現代中東の国家・権力・政治』(明石書店、2015年)など。主な論文は、「反体制勢力に対する外部アクターの影響」『国際政治』(166)(2011年)、(第5回日本国際政治学会奨励賞受賞)など。

**横田 貴之(よこた たかゆき)** 同計画研究B03研究分担者

明治大学情報コミュニケーション学部准教授

1995年早稲田大学政治経済学部卒、2005年京都大学大学院アジア・アフリカ地域研究研究科博士課程修了、同博士(地域研究)。専門は中東地域研究、主にエジプトのイスラーム主義。日本国際問題研究所研究員(2005-10年)、日本大学国際関係学部准教授(2010-16年)、2016年から現職。日本中東学会評議員(2011年-)。主な著書・論文に、『現代エジプトにおけるイスラームと大衆運動』(2006年、ナカニシヤ出版)、『原理主義の潮流—ムスリム同胞団』(2009年、山川出版社)、「ムバーラク政権によるムスリム同胞団のコオペレーションの再考」『アジア経済』55(1)(2014年)など。



「グローバル秩序の溶解と新しい危機を超えて: 関係性中心の融合型人文社会科学の確立 社会科学の確立」、略称「グローバル関係学」とは、文部科学省が実施する科学研究費助成事業「新学術領域研究」です。本領域研究では、危機に瀕する現代のグローバル社会の問題を読み解くためさまざまな関係性に光を当てた研究を、狭い範囲の共同体からグローバルなネットワークまで、幅広く行います。